

令和2年1月30日
福祉保健部健康増進課
課長 下川 和夫
電話 055-223-1494
FAX 055-223-1499

報道関係者各位

山梨県のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行状況について (富士・東部保健所管内で警報レベル)

令和2年第4週(1月20日～1月26日)の感染症発生動向調査結果は次のとおりです。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点あたり報告数
富士・東部保健所管内：8.20人^{※1}

定点あたりの報告数が警報レベルの基準値の8.00人以上となったことから、**富士・東部保健所管内はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の警報レベル^{※2}に入った**と考えられます。

大きな流行の可能性があることから、別紙の予防対策を改めて県民に周知したいので、報道機関の皆様方にも御協力をお願いいたします。

※1 【富士・東部保健所管内】定点数5医療機関合計報告数41人 41人÷5医療機関=8.20人

※2 定点1医療機関あたりの報告数が8.00人以上 警報レベル
(注意報レベルの設定なし。報告数が4.00を下回ると解除。)

【直近の数値】

週	山梨県	中北	峡北	峡東	峡南	富士・東部	甲府市
4週(1/20～1/26)	2.08	0.33	0.40	1.00	0.50	8.20	0.20
3週(1/13～1/19)	0.79	-	0.80	-	-	2.40	0.60
2週(1/6～1/12)	1.67	-	1.40	0.25	-	5.60	0.80
1週(12/30～1/5)	0.13	-	-	-	-	0.40	0.20
52週(12/23～12/29)	1.33	-	0.80	0.75	0.50	4.40	0.40

※前回の警報レベル入りは、中北保健所峡北支所管内で平成29年第42週(平成29年10月16日～10月22日)でした。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

●A群溶血性レンサ球菌咽頭炎はどんな病気？

- ✓ A群溶血性レンサ球菌によって起こる上気道感染症です。
- ✓ 患者は学童期(5～15歳)の小児に最も多くみられ、冬季および春から夏にかけてと、2つの流行期があります。
- ✓ 感染症法では定点把握対象の5類感染症に分類され、一部の小児科医療機関が届出基準に基づいて診断した場合、保健所に届出がされることになっています。

●どんな症状があるの？

- ✓ 主に突然の発熱(38℃くらい)、咽頭痛(のどの痛み)、全身倦怠感によって発症し、しばしばおう吐を伴います。また、発熱後12～24時間で赤い発疹が体に現れる猩紅熱しょうこうねつとよばれる全身症状を呈することもあります。
- ✓ 舌がいちごの粒のようにみえる「莓舌」がみられることもあります。
- ✓ 合併症として、肺炎や髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患や、リウマチ熱や急性糸球体腎炎を起こすことが知られています。

●どうやって感染するの？

- ✓ 感染経路は、飛沫感染(患者の唾液や鼻汁がくしゃみやせきで飛び散ることで、吸い込むことで感染)、接触感染(患者の手やさわったものを介して、口に入れたり鼻をさわったりすることで感染)などです。
- ✓ 潜伏期間は2～5日間です。

●治療方法と予防策は？

- ✓ 抗生剤を投与することで治ります。合併症を予防するためにも、およそ10日間の長期間、抗生剤投与が行われます。
- ✓ 予防としては、患者との濃厚接触を避けることが最も重要で、とくに家庭での感染や学校など集団時での感染に気をつけましょう。
- ✓ 一般的な予防策にもなる手洗いによる予防もぜひ取り組みましょう。